

輸出事業計画

※申請者名：熊本県経済農業協同組合連合会 品目：メロン

1. 輸出における現状と課題

【現状】

熊本県の農業産出額は全国第5位の3,477億円（令和3年）であるが、そのうちメロンは約115億円（令和3年）を占めており、野菜では本県第3位の生産品目である。

メロンは本県の主要品目の一つであるが、産地の規模は年々縮小しており、人口減少による国内市場の縮小も想定される中、国内流通向けの生産体系のため、成長を続ける海外市場のニーズを意識した生産ができていない。また、輸送中の箱潰れや鮮度劣化によるロスが発生し、海外現地バイヤーから信頼を落としている現状がある。

【課題】

輸出拡大に向けては、国内流通向けの生産方法から海外ニーズや輸出先国の規制に沿った生産方法の転換を図り、また、輸送中のロス率低下に向けた、箱潰れ防止対策、品質維持に向けた鮮度保持資材・技術の導入、国内物流時間の短縮に向けた輸出ルートの最適化が必要である。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産・加工】

- ・近年、青肉メロンと比較し、赤肉メロンの海外需要が高まっていることから、赤肉系新品種「レノンメロン」(種子部が小さく、日持ちも安定)の導入を促進し、海外ニーズの高い品目への転換を図る。
- ・管内JAや生産部会、生産者が海外渡航し、輸出先のニーズ把握や売り場を視察、また、バイヤーとの意見交換を通じて、輸出現場を体感し、輸出に対する意識醸成を図る。

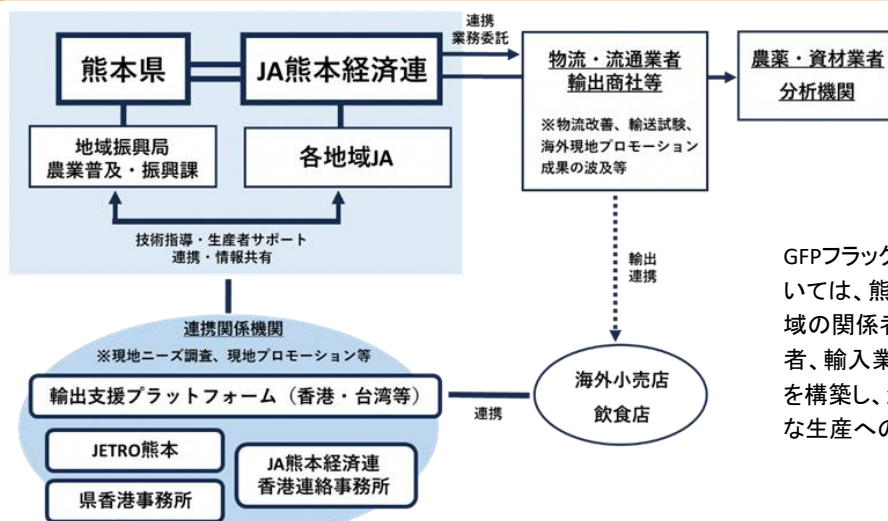
【物流】

- ・物流業者と連携し、県内選果場への一括集荷、輸出梱包作業の集約による物流の効率化を図る。
- ・鮮度保持剤や積載強化資材、新たな鮮度保持技術の導入によりロス率の軽減、長期保管による出荷時期拡大を図る。
- ・積載方法や産地出荷から海外販売店までの物流状況を各拠点で調査検証し、最適化することで、ロス率の軽減、物流コストの削減、輸送時間の短縮を図る。

【販売】

- ・既存国（香港、シンガポール、マレーシア、マカオ）では継続取引に向けた、新規国（アメリカ、UAE）では安定的な数量の出荷に向けたフェア・試食販売会等の開催、商談会への参加により、認知度向上を図る。
- ・輸出先国、一般消費者向け、高所得者層向けそれぞれのニーズに対応した等階級の選定、パッケージの開発、化粧箱等の作製を行う。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトにおいては、熊本県とJA熊本経済連の先導により、地域の関係者（物流業者、流通業者、農薬・資材業者、輸入業者等）が一体となって、輸出推進体制を構築し、海外の規制・ニーズに対応した持続的な生産への転換、流通体系の転換を行う

4. 輸出目標額

		現状 (令和4年度)	目標 (令和7年度)
熊本県内全域	輸出額 (千円)	45,453	50,111
	輸出量 (t)	60.4	66.6
	輸出先国	香港、シンガポール マレーシア、マカオ アメリカ	香港、シンガポール マレーシア、マカオ アメリカ、UAE
	取扱量 (t)	8,736	8,746